

録月念ふに書状

今卯末に抄末に居てお

讀む

新編くは去る文書なるは

ルルテ一冊多し其末あり

正なる由りしに取寄

○春西人上書東京に

情に多し他然知多

怪に歎困節行

○控除多矣大失物

心洋り一羽出帆也

開て一冊にたふし

○此を来りて教法宣

は任事奉りしに

心熱心弘道に

身公の如きも

これに如き

ふの字の

それら



とてしとてしとてし

ふしの峯の

そらふけりえ

ひらりし

ひふあし

まらりの民

ふしの根

空まらりえ

ひらりし

ふしの

た津河の民

右狂詠は序の巻の序正

まらり

別封二杉貴不附於

ふしの位は杉貴先

手翰の巻

ふしの位は杉貴先

正一

ふしの位は杉貴先

初

中村好希

予一の招み

雲々々々々々々々

乙々々々々

公阿々々

如津河之民

右狂詠古席之長古芥正

三々々

別封二杉愛不附於之矣

予子位但し杉愛先生

手翰ハ云々々々

予々々々々々々々々々

予部予位。上。延。下。女

予々々々々々

初々々

中村好希

箕井鹿先生

結史

京都の先生御月先生之代

諸先生朋友一日々々々々

独別ハ云々々々々々